

は、シロの死から始まった。短かったが、シロとの“交流”があったから。

墓地の横のMさん。

墓地で増えていた野良猫は、避妊去勢手術、Mさんのボランティアにより、今年の夏で平和的に終息を迎えようとしていた。ある日、その猫が交通事故で死んだ。二匹一緒に車に跳ねられた。Mさんは、「あの仔は、オスのくせに弱いかなんだか、いつもあの材木の上で寝ていた。一緒にいたもう一匹の猫とは仲良くてね、いつもくっついていただよね。死ぬ時と一緒にだなんて・・・。」と肩をがっくりと落としつぶやいた。少しだけ関わっていた私もその猫を知っていた。一才半のまだ若いオス猫達だった。しばしMさんと、生前のその仔の話をし叩いた。距離感があったが、Mさんとその仔達とは良い関係で“交流”ができていた。「結局、猫の人生って本当に短いものだね。こんなことならもっと美味しいもん喰わしてやればよかったよ・・・。」と言ったMさんのうつむいた姿が、切なかった。

## 猫と出会って学んだこと

吉沢 綾子

猫を飼い始めて早8年、計らずも何匹もの猫とそれをめぐる人々との出会いがありました。その中で感じたのは、猫はずっと昔からシンプルで変わらない生き方をしていて、次々と問題を作り出しているのは人間の方だということです。

私と妹は時々、見捨てられた猫を拾ったり預かって、良いもらい手さんを探し、避妊手術の必要性を話し、可能なら後日お宅を訪問させていただくという有志の活動の仲間になっていますが、猫たちは大体が飼い猫が増えてしまったとか、事情で飼い切れなくなったとか、そんな人間の都合で次々と見捨てられます。猫の世話も結構大変で、素人の少人数では限界があるとも感じています。また、ご近所の猫嫌いが他人の猫を勝手に捕まえてどこかやってしまったとか、毒を盛って殺してしまったという悲劇も実際に起こっています。

逆に、問題を解決することができるのも人間だと思えます。人と猫が平和に共存していくためには、猫好きも猫嫌いもどちらでもない人も、人間の方が皆で、もっと猫を正しく理解し、適正飼養の知識を深め、命の重さ、それに対する責任、思いやりや助け合いの精神など、人として大切なことを学び実践していくことが必要と思えます。その中に自治体や各団体の活動、地域猫の活動、また個人の努力が含まれると理解しています。実際そういう活動を熱心に行っている人たちがたくさんいます。

猫を知るようになってもう一つ感動したのは、そのシンプルな生き方そのものです。本能といえそれまでですが、猫はとことん一生懸命生きます。一匹一匹それぞれのドラマがあり、多くのことを学ばされます。悩んだり後悔することもあります。やはり最後に思うのは、「この子と出会えて良かった！」ということです。もっと多くの人々が是非この感動を味わい、人と猫の輪=和が広がっていったら良いと思えます。

### 豆知識 スキンシップ



子猫が毛布や他の子猫の体に吸い付いたりする行動は、早期離乳や人工哺乳の子猫に多く見られます。哺乳動物にとって授乳はとても大事で栄養だけの問題ではないのです。生後2ヶ月ぐらいの間に母乳をたっぷり吸わせないと、ストレスや不安からこのような行動をして、癖になってしまいます。不幸にも母親から引き離された子猫を飼うことになったら、哺乳の合間に十分なスキンシップが必要で、抱っこして撫でてあげたり、オモチャで遊ぶ時間を充分とってあげてください。こうした強迫性障害から起こる欲求行動が薄らぎ、他の物に興味を持てるように変わってきます。たっぷりの愛情は不可欠で人間の赤ちゃんと同じです。お腹だけ満たされれば満足ではないのです。

### 平成19年度 「ねこの会」 会計報告 (単位：円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	¥ 16,678	事務費	¥95,921
寄付・会費	¥ 236,667	備品費	¥107,589
収益・利子	¥ 60,907	運搬交通費	¥51,366
募金	¥ 197,111	接待交際費	¥59,591
小計	¥ 511,363	活動費	¥148,755
		雑費	¥28,683
		小計	¥491,905

収入 支出 残高  
 ¥511,363 - ¥491,905 = ¥19,458

※上記金額の他に中島塗装店様より毎月5,000円相当の餌の寄付をいただいております。

